

2021年度

西南学院大学 ボランティアガイドブック

Seinan Gakuin University Volunteer Guidebook



西南学院大学 ボランティアセンター

目 次

はじめに

ボランティアセンター長挨拶	1
ボランティアセンター（通称：ボラセン）とは？	2
ボランティアって、なんだろう？	3
ボランティア活動について（相談～活動までの流れ）	4
ボランティア登録について	5
ボランティア活動の心構え	5

ボランティア活動

☐ちよこボラ（ちよこっとボランティア）	6
☑東日本大震災ボランティア	8
☑熊本地震ボランティア	9
☑九州北部豪雨ボランティア	10
☑福岡で活動する被災地支援ボランティア	12
☑海外ボランティア	14
☑学生サポーター	18
☑他機関連携	19
☑学内ボランティア	23
☑学外ボランティア	25

学生グループ活動（サークル紹介）

(1)学生スタッフOPEN	26
(2)西南FWC九州	28
学生ボランティア団体助成	28
(3)いと	29
(4)Think&Act	29
(5)SIEC（西南国際教育協力隊）	30
(6)ワークキャンプ部	30
(7)のびっこの会	31
(8)Pao	31
(9)手話サークル とびうめ	32
(10)学生YM(W)CA	32
(11)西南ラブ・グリーン	33

そ の 他

印刷機・紙折機・裁断機の使用(無料)／活動室の利用	33
ボランティア活動保険について、社会福祉協議会(社協)	34
2020年度ボランティアセンター活動記録(前・後)	35
2019年度ボランティアセンター活動記録(前)	36
2019年度ボランティアセンター活動記録(後)	37

はじめに



ボランティアセンター長 石森 久広

西南学院大学で皆さんと出会えたことに感謝し、皆さんお一人おひとりの学生生活が、いろいろな人との出会いや、さまざまな経験を通して、有意義で実りある豊かなものになりますよう、心からお祈りしています。

本学の建学の精神は、「西南よ、キリストに忠実なれ」です。また、本学の教育方針の一つに、「奉仕の精神をもって社会に貢献する人を育てる」があります。私たち教職員は、学生の皆さんを、他人の立場に立ってその人にやさしく寄り添える人、また、そのような気持ちをもって社会に貢献できる人に育て、社会に送り出したいと考えています。本学においてボランティア活動は、それを実現するための一つの有力な取組みとして位置づけられ、学生の皆さんの活動を支援・推進する部署として、キリスト教活動支援課の中にボランティアセンターがおかれています。

ボランティア活動は、力を必要としている人に、少し力に余裕のある人が、その力を貸すという行為です。活動してみると、「力を貸すことで相手が喜んでくれた」「喜んでくれたことに喜びを感じた」「もっと喜んでもらうためにもっと力をつけたいと思った」といった体験を得られるでしょう。最初の動機は「困っている人を助けたい」「困っている人の役に立ちたい」が多いかもしれません。しかし、活動の成果は、困っている人が助けられることだけにとどまりません。活動した人自身にも、「自分を変えることができた」「新しい視点を持つことができた」「当たり前だと思っていたことが当たり前ではなかったことに気づいた」などなど、大きな学び、成長をもたらしてくれます。

皆さんは、教室で専門的知識・能力を身に付けます。しかし、これをどう使えば社会に役立つかを学ぶ場面は手薄です。学んだ知識・能力をどう使えば世の中の人に喜んでもらえるか、喜んでもらうためには何をどう学んだらよいか、ボランティア活動の経験が、大学で学ぶ意義を改めて見つめ直す契機にもなってくればと願わずにはられません。

本学においては、多くの学生たちが、被災地支援・海外ボランティア・学生サポーターといったチャンネルを通し、子育て・教育・福祉・環境・国際交流など、幅広い分野で活動を展開しています。そこには、同じ年代だけでなく、乳児から高齢者まで多くの人たちとの出会いや、個人だけでなく地域・行政・企業などとの交流が待っていて、参加者の視野は格段に広げられることでしょう。

ぜひ、大学入学を機会にボランティア活動を始めてみてください。もっとも、無理は禁物です。自分に合う活動を見つけてください。そうすることで、自分自身をみつめる良い機会となり、自分の新たな一面にも出会えるでしょう。ボランティアセンターは、いつも皆さんを応援しています。

ボランティアセンター（通称：ボラセン）とは？

ボランティアセンターは、ボランティア活動を建学の精神の具現化並びに大学の社会貢献の一つと位置付け、学生、教職員等によるボランティア活動を支援・促進することを目的としています。センター内には、職員が常勤していますので、ボランティアをするのが初めての方や迷っている方など、どなたでもお気軽にご相談ください。

【場 所】 ボランティアセンター（キリスト教活動支援課）

1号館2階 エレベーター横

TEL 092-823-3662 FAX 092-823-3335

E-mail : swvoc@seinan-gu.ac.jp

H P : <http://www.seinan-gu.ac.jp/volunteer/>

Facebook : <https://www.facebook.com/seinavoc/>

【開室日】 通常期間 月～金 8:45～17:20

（長期休暇中や行事などで閉室する場合があります）

【休室日】 土曜日、日曜日、国民の祝日、学院創立記念日、クリスマス、
年末年始、その他大学が特に定める日

【サポート】 ボランティア活動に関する相談、情報交換会の開催、
ボランティア情報・関連する講演会やイベント情報の発信、
ボランティアグループとの懇談会

【ボラセンが企画するボランティア】

- ・東日本大震災ボランティア
- ・熊本地震ボランティア
- ・九州北部豪雨ボランティア
- ・緊急災害ボランティア
- ・他機関との連携企画
- ・学内ボランティア
- ・海外ボランティア
- ・学生サポーター
- ・久山療育園ボランティア
- ・ちょこっとボランティア
- ・その他

【学内外からの主な依頼】

- ・学内の各部署が募集するボランティア
- ・イベントのお手伝い（障がい者施設・高齢者施設・学内など）
- ・リサイクル、ゴミ拾い
- ・街頭募金活動
- ・地域活性化活動（商店街など）
- ・その他



ボラセンからメッセージ

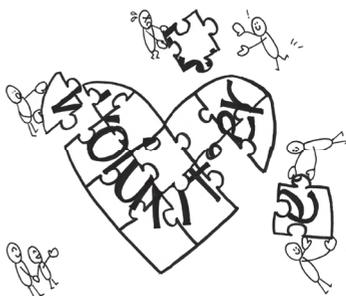
ボラセンのスタッフは、アドバイスするだけでなく、皆さんと一緒にボランティアや活動について、考えていきたいと思っています。まずは、いつでも気軽にたずねてきてください。皆さんとお話できるのを楽しみに待っています！



ボランティアって、なんだろう？

高齢者や障がい者、困ってる人の手助け？善意あるお手伝い？
どれも大事なことだけど、専門知識もないし、何だかすごいこと
のようで、想像すればするほど、難しそう・・・
なんて思っている人は多いのではないのでしょうか。

それでは、今までにこんな経験はありませんか？
バスの中で自分の席の前にお年寄りが・・・
『席をゆずろうかな、どうしようかなあ・・・』と
ソワソワした経験。
荷物を沢山抱えた人がドアの前で困っている・・・
『扉を開けてあげよう！』と駆け出した経験。



“ほっとけない”“あの人の為に何かしたい・・・” そんな、くすぐったいような、もどかしい
ような、モヤモヤした感覚。それこそが、ボランティアの種。皆さんの心にそっと芽生える
“ボランティアの種”を大事にして、育て、勇気を出して一歩前へ踏み出してみましょう。
“誰かのために”歩みだしたことが、結局は“自分にも何か与えられている”その2つが同
時に起こる素敵なことが「ボランティア」なのです。

ボランティア活動の4つの原則

自発性・自主性

～「やりたい！」想いと初めの一歩を大切に～

自分の“やりたい！”想いを形にして始める活動であり、他からの強制や義務で行う活動ではありません。決めるのは自分自身なので、積極的に行動できます。自分の想いを活動として表現するので、人の心に働きかける力をもっています。



無償性・無給性・非営利性

～お金では買えない目に見えない心の財産～

活動を通して、お金では得ることができない達成感や感動、仲間との共感、新たな出会い、気づきを得ることができます。個人的な利益や金銭的な報酬を期待するものではありません。

(ただし、交通費や食費、材料費などの実費弁償は、有償とはみなしません。)

先駆性・開拓性・創造性

～アイデアから、より良い地域や社会を創ろう～

今、目の前にある必要なことに、すぐ手を差し伸べ取り組むことができます。今ある仕組みや発想にとらわれず、何が必要とされているのかを考えて、新しく創り出し、新しい仕組みやサービスを生み出すことができる活動です。結果的に先駆的で開拓的な分野や活動を担うこととなります。

社会性・公益性・連帯性

～みんなのために、みんなで支え合おう～

一人ひとりの人間を大切にすると共に、だれもがいきいきと豊かに暮らせる社会を目指しています。社会にはさまざま課題があり、すべての課題を自分一人て解決することは難しいです。多くの人と出会い、つながり、協力しあい、学び合って、共に課題を解決する活動です。

ボランティア活動について（相談～活動までの流れ）

①ボラセンに行ってみよう！ （1号館2階エレベーター横）

ほとんどの人が、大学生になって初めてボランティアをしています。ボラセンでは、初めての人を対象にした講座なども開催しているので、自分に合う活動や講座を一緒に探しましょう。



※ボランティア登録をしよう！
（5ページ参照）



②自分にあうボランティア活動に参加してみよう！

参加したい活動が見つかったら、各自で団体に申し込みましょう。いよいよ、ボランティア活動の始まりです。申込後は、各自で大学生としての自覚と責任をもって参加し、急に参加できなくなった場合も、必ず自分でお詫びの連絡をしましょう。困ったことが起きたら、ボラセンへ相談してくださいね。



※ボランティア活動保険に加入しよう！
（34ページ参照）



③ボランティア活動について報告しよう！

活動が終了したら、ボラセンまで体験談をお寄せください。皆さんの体験談が、次にボランティアをする方への情報源として活用されます。



ボランティア登録について

ボラセンには、学内外から様々なボランティアの依頼があります。これらの依頼内容は、ポータルにアップしたり、ボラセンの掲示板に掲載しています。なお、ボランティア登録をされた方には、定期的にボランティア情報をMoodleからメール配信しています。ぜひ、次の方法で登録をしてください。

※ボランティア登録は、年間を通して受付をしています。
(登録料・会費などは一切かかりません)

【登録方法】次のいずれかの方法で登録してください。

◆QRコード

※ボラセンのHPからも登録できます。

◆メール（以下の内容を記入のうえ、送信してください。）

〈宛先〉swvoc@seinan-gu.ac.jp

〈件名〉ボランティア登録 〈本文〉①在学番号、②氏名



ボランティア活動の心構え

1、無理せず、背伸びせず、楽しく継続

ふだんの暮らしに支障が出る活動は、長続きしません。自分の出来ることだけでなく、出来ないことについても活動先には伝え、自分に合った活動を選びボランティア活動を楽しみましょう。

2、最低限のマナーは守る

小さなことでも、活動先との約束は必ず守りましょう。特に時間厳守を意識し、遅刻や欠席の場合は、必ず各自で責任をもって活動先に連絡してください。突然、連絡が途絶えると、活動先は困ります！

最後まで「西南学院大学の学生」である自覚をもって、行動しましょう。

3、身だしなみの確認

申込みの際、活動中の服装についても事前に確認し、特に、必要以上のアクセサリは外して活動しましょう。活動前にもう一度、自分の身だしなみをチェックするよう心がけましょう。

4、秘密厳守（個人情報）

活動を通して知り得た個人情報は口外してはいけません。逆に、自分の連絡先も活動先の担当者以外に、みだりに教えてはいけません。また、安易に写真を撮ることは控え、活動先の許可を得てから撮影しましょう。

5、お互い気持ちよく、信頼関係を築こう

様々な思いの人たちが、いろいろな役割で関わっています。相手を尊重し、協力しながら、コミュニケーションを深め、信頼関係を築いていきましょう。



ボランティア活動

① ちょこボラ（ちょこっとボランティア）

今すぐ始められ、身近なところから自分のできることを無理なく楽しくマイペースにお手伝いできる「ちょこボラ」をご紹介します。

(1)被災地を応援するボランティア

①災害支援金

被災地に災害支援金を送ろう！

本学では、災害支援金を募って被災地へ届けています。

東日本大震災・熊本地震・九州北部豪雨災害などの被災地支援金として送金 ほか

※寄付金控除の対象外です。

【口座】 西日本シティ銀行西新町支店
普通 1569416
「学校法人西南学院義援金口」

※本・支店窓口(ATMを除く)から振り込む場合は、振込手数料は不要です。



②お弁当容器の回収（災害支援金に協力できます）

お弁当容器を回収し、被災地に災害支援金を届けよう！

お弁当容器（リリパック）回収による払戻金が被災地へ送る災害支援金になります。お弁当を食べ終わったら、赤い（もしくは黒い）フィルムをはがし、白い本体のみを回収ボックスへ！割れても大丈夫です！

弁当容器1個が10円の災害支援金として募金されます。

※生協、クロスプラザで販売されているお弁当のみ

【回収ボックス設置場所】

1号館：2・3階エレベーターホール 2号館：学生ホール、2階廊下
西南会館ラウンジ、生協食堂1階、図書館1階ライブラリーカフェ、
学術研究所1階ロビー、コミュニケーションプラザ1階



(2)ペットボトルキャップの回収

ペットボトルキャップを回収し、世界の子どもたちにワクチンを届けよう！

飲み終わったペットボトルのキャップは、回収ボックスへ！

ペットボトルキャップ約2000個のリサイクル対価が、一人分のポリオワクチン（約20円）に相当します。

※リサイクル対価は市況によって変わる場合があります。

【回収ボックス設置場所】

1号館：2階入口、4・5階 2号館：学生ホール、3・4階
4号館1階、生協食堂1階・通路、クロスプラザ1階、本館 ほか



(3)寄付本★プロジェクト

自宅で眠っている不要本を寄付して、奨学基金へつなげよう！

不要となった古本などを寄付し、本学の奨学基金へつなげるプロジェクトです！

【回収ボックス設置場所】

学術研究所、コミュニケーションプラザ各階ロビー、
法科大学院事務室内、1号館2階ボランティアセンター、
2号館1階学生ホール

※業者の回収は、原則、第1火曜日です。

《対象となるもの》

専門書～趣味の本までOK・書込みされた本もOK

CD・DVD・ゲームソフト

《対象とならないもの》

(書 籍)百科事典・同人誌・新聞・個人出版の本・復刻マンガ

(CD/DVD)ケースがない・サンプル・規格品番なし



(4)カンボジア支援 (文房具ほか)

SIEC(西南国際教育協力隊)の取り組みについて

カンボジア支援プロジェクトは、毎年3月と11月に年2回カンボジアに渡航して教育支援を行っています。日々の活動では寄付(赤白帽子、ノート、筆記用具etc)を募ったり、他大学と共同で会議を行ったりして、渡航が迫ると、運動会や授業の準備を行い渡航に備えています。現地では、都市部にある学校から郊外にある学校まで幅広い地域の学校で運動会や授業を行っています。

【文房具回収ボックス設置場所】

ボランティアセンター前・西南会館・5号館心理学実験室前



(5)その他 (古切手・書き損じハガキ)

使用済み切手、書き損じハガキなどを福祉活動や発展途上国の支援活動に役立てよう！

①古切手 (使用済み切手)

封筒やハガキに貼ってある切手を、消印のスタンプ切手周囲1cmを残して切り取り、回収ボックスへ！

②書き損じハガキ

年賀状や通常ハガキで、ミスプリントしてしまったものなど、回収ボックスへ！

【回収ボックス設置場所】

ボラセン前の備え付け回収ボックス



㊦ 東日本大震災ボランティア

2011年3月11日14時46分18秒に起きた東日本大震災は、東北地方を中心として広域に渡って甚大な被害をもたらしました。現地の状況は変化していますが、今でもさまざまな支援が必要です。本学からも学生や教職員が、ボランティア活動を行っています。

10年間 延べ活動者 82チーム 641名

2011年度	参加者	9チーム	102名	2016年度	参加者	4チーム	42名
2012年度	参加者	10チーム	116名	2017年度	参加者	3チーム	39名
2013年度	参加者	17チーム	133名	2018年度	参加者	4チーム	18名
2014年度	参加者	16チーム	87名	2019年度	参加者	3チーム	12名
2015年度	参加者	16チーム	92名	2020年度	新型コロナウイルス感染症拡大のため中止		

〔2019年度実施〕

〔1〕日本パプテスト連盟を通しての活動

2011年9月から、毎年実施している活動。現地の教会が交流されている宮城県石巻市牡鹿半島などで一緒に活動したり、他大学との交流プログラムがあります。



神学部 神学科 原田仰

私はボランティアとは何なのかということを知りました。「閉上の記憶」というところでガイドの人がおっしゃったひとこと、「支援って、復興とはいったい何なのか？」それは今、ボランティアにかかわる私に突き刺さるものでした。それは復興と共に、思い出を失くしていく、仮設住宅でできた関係を失くしていく人たちの言葉でした。ボランティアを必要としている方々が期待することは何なのか。それを真摯に受け止めていく必要性を知りました。

経済学部 経済学科 大森涼矢

東日本の方にはあまり行ったことがなく、東北地方に行ったのも今回が初めてでした。今回この活動に参加したのは、震災状況の詳細やその後の復興状況などを全然把握していない、だからこそ自分の目で確かめたいと思ったからです。そして実際に宮城の地に行って、写真や映像、展示物、震災を目の当たりにした方々の話などから分かる震災の悲惨さ、その中でも強く生き続けてきた方々と進められてきた復興事業など、直接自分の足で行き、自分の目で見たからこそ得られた経験と情報がありました。参加できてよかったです。

(2)大学間連携災害ボランティアネットワーク（事務局：東北学院大学）

2011年9月から、毎年実施している活動。全国141の大学が連携してネットワークを築き、全国から集まった学生たちと一緒に活動します。「夏季集中ボランティア2019」では、気仙沼・亶理郡山元町・石巻市牡鹿半島の3つのプロジェクトのうち、山元町での活動に参加しました。活動内容は、多岐にわたり、毎年、異なります。



法学部 法律学科 織田尚子

勉強、バイト、部活、サークル、遊びという夏休みを過ごすのも悪くないなど、入学当初は思っていましたが、夏休み直前になり、大学生だからできることは他にないか、自分の為だけに過ごす夏休みで終わっていいのかと自問自答し、気にかけていたボランティア活動の話聞きに行きました。ほんの少しの興味から、東日本大震災のボランティアに参加することになり、東北の復興に関わる中で、自分の目で見て、現地の方のお話を聞いて、大変貴重な体験ができました。少しでも興味があれば、大学生活の中の素晴らしい体験の一つをボランティアをとおして作って欲しいです。

③熊本地震ボランティア

2016年4月14日21時26分頃に、熊本県熊本地方を震源とする、マグニチュード6.5の地震が発生し最大震度7を観測。さらに、4月16日1時25分頃には、同じく熊本県熊本地方を震源とする、マグニチュード7.3の地震が発生し、この地震でも最大震度7が観測されました。本学からも熊本に学生や教職員を送り出し、ボランティア活動を行っています。

4年間 延べ活動者 12チーム 168名

2016年度 参加者 7チーム 131名 2019年度 参加者 2チーム 19名
2017年度 参加者 3チーム 18名 2020年度 新型コロナウイルス感染症拡大のため中止

〔2019年度実施〕

九州キリスト災害支援センターのご協力のもと、益城町の仮設住宅で活動。

活動内容：熊本地震の現状の学び、仮設住宅の方々との交流や学習支援ボランティア

学習支援

文学部 英文学科 田之上まい

今回のボランティアは、震災後からどれくらい復興しているのか、どんな支援が必要なのか現状を知りたいと思い参加しました。震災直後は、物資の支援や倒壊した家屋の片付けなど、支援すべきことが明らかでしたが、次第に被災者のニーズが多様になり、心のケアも重要になってきたと知り、被災者に寄り添っていくことが必要なのだと思います。熊本地震の報道が次第に減少する中、まだ仮設住宅に住んでいる人がいることや、支援を必要としている人がいることを忘れないことだけでも、彼らに寄り添っていることに繋がり、小さな行動でも役に立てようになりたいです。



傾聴交流



④ 平成 29 年 7 月九州北部豪雨災害ボランティア

2017年7月5日から6日にかけて、福岡県と大分県を中心とする九州北部で猛烈な雨を継続して降らせたことから、記録的な大雨となり甚大な被害が発生しました。本学も行政や他大学、NPO 団体などと連携し、学生や教職員を送り出し、ボランティア活動を行っています。

- ・東峰村ボランティアセンター 2日間 延べ11名（職員4名・学生7名）
- ・うきはベース1st 24日間 延べ108名（職員16名・学生92名）
- ・うきはベース2nd 34日間 延べ207名（職員19名・学生188名）
- ・うきはベース2018 32日間 延べ140名（職員8名・学生132名）
- ・うきはベース2019 21日間 延べ70名（職員2名・学生68名）
- ・うきはベース2020 1日間 延べ1名（学生1名）



(1) 東峰村災害ボランティアセンター 宝珠山サテライト (2017.7.16と7.17の2日間)

7月14日に開設したばかりの本部で、運営スタッフとして活動。
活動内容：受付係、資材係、物資係に分かれて担当



(2) 大学生災害ボランティア支援センター実行委員会主催 「うきはベース1st」(2017.7.22から2017.9.18まで)

① 実行委員会運営委員

福岡県、NPO 法人ANGEL WINGS、北九州市立大学、西南学院大学

② 「うきはベース1st」とは

うきは市から「ムラおこしセンター」を無料で貸与していただき、全国からボランティア活動のために来福した大学生の無料宿泊拠点として整備、また研修及び学生同士の交流などを実施。

期 間：2017年7月22日～9月18日毎日60日間

利 用 者：全国から92大学等872名

活動内容：ボランティアセンターの運営、泥出し、環境整備、ニーズ調査、交流など



(3) 福岡学生災害支援実行委員会主催

① 実行委員会運営委員

NPO 法人ANGEL WINGS、北九州市立大学、久留米大学、西南学院大学（福岡県は委員会メンバーではなく、助成金拠出側として後方支援）

② 「うきはベース2nd」とは

「うきはベース1st」に引き続き、学生たちの夏休みが終わっても、週末に継続して活動できるよう、新しい拠点「うきはベース2nd」を設置。助成金を獲得しながら、元JAにし山春支店に拠点を移動し活動。

期 間：2017年9月19日～2018年3月31日まで週末、祝日、長期休み

利 用 者：全国から35大学等674名

活動内容：泥出し作業、農業支援、仮設住宅支援、イベント支援、松末さいこうプロジェクト、子ども支援、交流など

③ 「うきはベース2018」とは

2018年度も引き続き、月2回、週末に「うきはベース2nd」で活動。

西日豪雨災害により、再度被災した朝倉市杷木地区を中心に活動を継続。地域の方々に寄り添い、交流しながら現在も活動している。

期 間：2018年4月～2019年3月

活動内容：松末地区、東林田地区、志波地区などとの交流、支援活動など

杷木復興支援ベースを通しての活動、プレーパーク活動、統合した杷木小学校での学習サポートなど

④「うきはベース2019」とは

2019年度も引き続き、月2回、週末に「うきはベース2nd」で活動。地域の方々や子どもたちに寄り添い、交流しながら、現在も活動している。7月から8月にかけて、台風や豪雨が続いて中止となった活動も多かった。後期には、「うきはベース2nd」から「WA ッショイ杷木」に拠点を移すための拠点作りや引越も行った。

期 間：2019年4月～2020年3月

活動内容：「かたらんね杷木」の活動を通して地域の方との交流、子どもの遊び場支援「すくすく朝倉の未来隊プレーパーク」、土砂が流入した田畑の再生実験を通じた農業支援、うきはベース拠点作り、復興マルシェ、九州北部豪雨の現状の学びなど



人間科学部 心理学科 萩平苑子

私は子どもの遊びを補助するプレーパークの活動に参加しました。最初は自分に何ができるのかわからず、行っても何もできないのではと不安でしたが、現地に行くと自分も必要とされて、話しかけると子どもたちも応えてくれて、楽しく遊ぶことができました。一緒に遊んだ子に「また来てね」と言われたのがとても嬉しかったです。プレーパークでは子どもたちがのびのびと遊んでいる姿がとても印象に残りました。3年生になって初めてこのようなボランティアに参加したのですが、もっと早くから参加しておけば良かったと思いました。これからも参加できる時に活動していきたいと思っています。

⑤「うきはベース2020」とは

期 間：2020年9月～2021年3月

活動内容：新型コロナウイルス感染拡大のため、オンラインにて大学生災害ボランティア講座(月1回)を実施した。12月には大牟田農業災害ボランティアサポート拠点において、田んぼの土砂撤去の活動を行った。



法学部 法律学科 仲村敦志

今回初めてボランティア活動に参加させていただきました。今回の活動内容は被災した地での土砂の撤去作業であり体力仕事メインでしたが、男女関係なくご年配の方々も多く活躍されていたのに驚きました。ボランティアの先輩方に丁寧にやり方を教えていただき、初めての活動でもしっかりと地域に貢献できたと思います。自分自身の経験になったのはもちろんなのですが、なによりこのような活動によって少しでも地域の復旧に力を貸すことができたのがとても嬉しかったです。

大学生災害ボランティアオンライン講座 (全7回：9月～3月まで毎月実施)

令和2年7月豪雨災害において、新型コロナウイルス感染の拡大により、学生の組織的な支援活動が困難な状況でした。そこで、今回の災害を振り返り、各回災害支援に精通した講師の方をお招きし、今後大学生としてどのような支援活動が実施できるかを検討するための研修会を毎月オンラインで開催しました。

人間科学部 心理学科 木村公亮

私は、SAINS ポータルでこの企画を見て、何を学ぶのか興味が湧き、参加しました。この企画に参加して、同じ災害でも置かれた立場、被災地域によって、それぞれに被害状況が違っていると改めて気付かされました。最後に、コロナ禍により憂鬱な気分になり西南生としてのモチベーションを失いかけていましたが、ボラセンスタッフの励まし、外部の魅力的な人との出会いもあり、少しずつモチベーションが湧きました。特にコロナ禍で気分が鬱屈としている人こそボラセンの講義を受講して欲しいです。

国際文化学部 国際文化学科 鈴木希実

災害ボランティアについての知識を身に付けたいと思い講座に参加しました。ボランティアの第一線で活躍されている講師の方のお話を聞き、ボランティア活動の現状、ボランティア運営への支援の重要さや、災害時に利用できる法律と制度などを学びました。グループ討議では同じボランティアに関心がある大学生と意見を交わし、とても刺激を受けました。講座に参加したことによって自分の中にある「ボランティアは現地しかできない」という固定観念が消え、まず募金や物的支援など、身近なボランティアから始めていきたいと考えるようになりました。

⑤ 福岡で活動する被災地支援ボランティア

学生たちは、実際に被災地の状況を見て、感じ、被災地の皆さんと交流し、活動する中で、さまざまな想いを抱いて帰ってきました。学生たち一人ひとりの活動は「点」にすぎないけれど、みんなの「点」を集めれば「線」になるということを信じて活動してきました。学生たちは、東北など現地の活動だけで終わらず、福岡でできることを考え、発信しています。

福岡での復興支援活動は、まだ東北や熊本や朝倉に行ったことがない学生も参加できます。イベント当日のみの参加も可能です。まずは、自分でできることを考え、福岡で自分の「点」を残してみませんか？詳細はポラセンにお問い合わせください。

〔2020年度実施〕

被災地にクリスマスカードを贈ろう（被災地へ思いを届ける！）

2011年冬から、毎年、手書きのメッセージを添えて被災地の方々へクリスマスカードを贈っています。活動で交流している岩手県大槌町や宮城県の大牡半島の方々、朝倉市の杷木小学校の子どもたちにも贈りました。また「被災地の子どもたちに、クリスマスカードを届けよう！プロジェクト」にも参加し、東北・熊本・岡山・広島・愛媛・北海道・大阪など、全国の被災地にも届けられました。



経済学部 経済学科 益永綾乃

私がコロナ禍で時間の使い方を見直していたときに思いついたのが、以前から気になっていたボランティアでした。この時ボランティアセンターが案内していた「被災地にクリスマスカードを贈ろう！」は、ボランティア経験のない私にとって、とても参加しやすかったです。見知らぬ方にメッセージカードを送ることは初めてでしたが、相手のことを思いながら書くことで自然と私自身も心が温まりました。今回の経験を通して、改めてボランティアは自分も相手も気持ちの良くなる素敵な活動だと思いました。ボランティアをすることはとても勇気のあることだと思いますが、このような小さなボランティアからでもぜひ一緒に参加してみませんか。

〔2019年度実施〕

はるかのひまわり

阪神・淡路大震災ゆかりの「はるかのひまわり」絆プロジェクトに参加し、キャンパスに「ひまわり」の種を植えました。2012年度震災ボランティアに参加した先輩たちが宮城県の門脇小学校から持ち帰った種でした。ひまわりを育てることを通して、阪神・淡路大震災、東日本大震災のことを忘れずに、命の大切さについても語り続けています。

2015年は、西南学院大学のキャンパスで採取した種を広島土砂災害で被災した、安佐南区「阿武の里」花いっぱいプロジェクトに届けました。



7月5日防災研修

2017年7月5日から6日にかけて、九州北部豪雨災害が起きました。被災地のことを覚え、2019年7月5日（金）、1号館710教室にて、学生ボランティア団体「いと」主催で防災研修を開催しました。福岡市の担当者をお招きし、防災ゲームなどを通して、災害に必要な知識を学びました。



法学部 国際関係法学科 上村 楽人

7月5日に実施された防災研修を通してまず私が驚いたことは、災害時における対処方法として、私がこれまで考えていた対処方法と福岡市役所の方に教えて頂いた最善の対処方法とが全く異なっていたということです。もし今回の防災研修を受講していなかったら、いざ災害が発生した時に、おそらくきちんと対処することができないであろうと考えると、今回の防災研修を受講することができて本当に良かったです。将来もし大なり小なり災害が発生した時は、今回学んだことを活かせるように、日頃から意識して行動していきたいです。

夏休み子ども防災教室in 西南学院大学

UR都市機構九州支社と連携し、団地に住んでいる子どもたちを大学に招き本学学生が防災について伝え、一緒に楽しみながら学ぶイベントを開催しました。キャンパスツアーや防災教室、身近なものを使って作る防災グッズの工作などをしました。



大学祭にて教室展示

教室展示では、これまでの活動をまとめた資料や写真などを展示しました。大学祭には、地域の方々や学生たちの家族や友人、お世話になった方も足を運んでくださいました。売り上げの一部を被災地に募金しました。

活動報告

- 日本パプテスト連盟の教会で報告しました。
- ・大名クロスガーデン
- ・長住パプテスト教会



ボランティア&平和研修報告会

2019年度活動した学生たちが、チームごとに発表しました。先輩たちから後輩たちへ、一人ひとりの「点」が繋がって「線」になっていることを実感しました。被災地での活動だけでなく、海外ボランティア、平和研修、その他のプログラムでの活動も一緒に報告しました。



⑥ 海外ボランティア

海外ボランティア・ワークキャンプ ※2019年度実施

2003年度から、フィリピンでワークキャンプを実施しています。日本とフィリピンの国際飢餓対策機構と連携し、同アジアの中で違う「アジア」を体験し、地元の人たちとの交流や貧困地域で活動を行い、ボランティアマインドを育成することを目的に活動しています。

1. 活動期間：2月～3月の11日間
2. 活動場所：フィリピンマニラ郊外
3. 活動内容：貧困地域で活動、地元の人たちとの交流
小学校訪問、家屋修理や校舎の建築などのワーク
4. 募集方法：ポータルにて案内（説明会有）
5. 募集人数：約15名



国際文化学部 国際文化学科 辻千里

最初は不安でいっぱいだったフィリピンでの11日間も、気がつけばあっという間に最終日、まだ帰りたくない！と思うほど充実した毎日でした。活動する場所や内容によって、感じることも、考えることは様々でしたが、特に印象に残っていることが現地の方々の笑顔です。毎日が小さな幸せで溢れていること、人との繋がりの大切さに改めて気づかされました。11日間という短い期間でしたが、この先の自分にもずっと繋がる11日間になっています。勇気を出して飛び込んでみて、本当によかったです！

人間科学部 社会福祉学科 能美泰成

私は、このフィリピンの海外ボランティアを通して、フィリピンが貧困な国であっても、みんなが笑顔でいれば日常が楽しくて充実感のあること、そこには人それぞれの幸せがあるということを感じました。この経験を通して、今はコロナ禍で家にいることが多くなりやすいが、でもこうして健康でいられることにありがたさを感じ、もしその気持ちが少しでも欠けているのであれば、それは日々の感謝の姿勢が不足していると学んだ。そして、この経験を忘れず、今繋がっている縁を大切に、改めて自分自身を見つめ直し、今できることを探して、その時に人の役に立ちたいという気持ちを無くすことなく、大学の場でも、大学を卒業してからの社会の場でも、確かにあったフィリピンの方々からの愛を忘れず、劣ることなく前進して活かしていきたいと感じた。

文学部 外国語学科 英語専攻 瀬戸口未来

蛇口からきれいな水が出てくること、温かい水でお風呂に入れること、このような当たり前が少し離れたところでは非日常であることを目で見て体験したことで、今いる環境のありがたさを痛感しました。そして、お金＝幸せとは限らないこと。これはフィリピンの人たちと接するたびに感じました。現地の人とはコミュニケーションを大切に、毎日毎日心から笑っていました。ある程度のお金は必要ですが、それ以上に「毎日を楽しむこと」の大切さを学びました。この体験を思い出しながら、周りの人を大切に、そして1日を大切に過ごしたいと思います。

海外ボランティア支援 〔2020年度実施〕

西南学院大学のグローバル化を進めるための一つの方策として、海外での活動を促進するため、海外ボランティアに参加する学生に補助金を支給しており、2019年度の対象プログラムは、「NGO 合同説明会 in 西南学院大学」に参加した団体主催のボランティア及び、スタディツアーでしたが（P16～17 参照）、2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で海外への渡航が難しいことから、一般社団法人ボランティアプラットフォーム企画「オンラインSDGs 海外ボランティア研修」を対象プログラムとしました。この研修は12回にわたり、日本と世界のSDGsの取り組みをeラーニングで学習し、LIVE アクティビティでは、カンボジア現地とオンラインで結び、子どもたちにゲームをしながら直接日本語を教えることができるボランティアも2回含まれています。充実したプログラムで本学からはこの制度を利用して、96名（ショートコース7名）の学生が受講しました。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



研修内のSDGs 小論文コンテストでは、全国の高校生・大学生の応募の中から、本学人間科学部児童教育学科の田中美羽さんが「優秀賞」を受賞しました。小論文の内容につきましては、右記QRコード、または下記URLからご覧ください。

[URL]https://www.seinan-gu.ac.jp/volunteer/v_newslist/8756.html



田中 美羽さん

オンラインSDGs 海外ボランティア研修を通して、研修前よりもSDGsのことを知ることができ、SDGsを知るだけではなく自分事として捉え、生活の中で実践していくことの重要性を学びました。また、カンボジアの子供たちとのLIVE アクティビティは、臨場感があってとても刺激的でした。子供たちの日本語を学ぼうとする意欲や、質問に日本語で答えることができた時の嬉しそうな笑顔が印象に残っており、私も実際に現地に行ってボランティアをしてみたいという気持ちが強まりました。

法学部 国際関係法学科 尾崎央虎

今回のボランティアを通して、他国の子どもたちの学習に対する食欲さを目の当たりにして、それに驚かされたのが率直な感想です。日本語をZOOMを使って教えることは決して簡単ではなかったですが、どうすれば上手く伝わるのか試行錯誤した時間は楽しかったです。特に海外ボランティアのように自分の国とは違う背景や文化を持った人たちと関わることができるのは非常に貴重な機会だと思うし、自分自身の考え方や視野も広がるのでとても有意義なものだと感じました。今後も海外の人と関わられるようなボランティアがあれば積極的に参加してみたいです。

商学部 商学科 江藤愛実

今回が初めてのボランティア参加でした。コロナ禍で時間に余裕ができ、以前からやりたかった海外ボランティアがオンラインでできるということで参加しました。SDGsについての理解を深めることができ、社会や政治への関心も高まり考え方のものを変えることができました。知識面でも成長し充実したボランティアでしたが、実際にZOOMを使ってカンボジアの子供たちと交流できたことが私にとってすごくいい経験になりました。環境に負けず一生懸命学んでくれる子供たちを見て、とてもやりがいを感じました。世界中の人々が環境に左右されず平等に活躍できる社会、そして持続可能な社会を作っていくために、これからも「知って、行動して、広める」活動をしていきたいと思います。



人間科学部 児童教育学科 山本将照

今回、SDGsについてのオンライン研修に参加した。勉強を進めていく中で、知らないことと出会った時に一度立ち止まって考える時間を持つことができた。勉強をしていくだけではわからない現地とのコミュニケーションもあり、カンボジアの子供たちの様子を見ながら会話ができたことは不思議な経験であった。オンライン上でのやり取りではあったが、心が温まるような笑顔で迎えてくれて、自分の活動が少しでも役に立っていると実感することができた。これからも少しずついろいろなSDGsの目標と触れ、将来子供たちと接していく時に共に考えたいと思う。

商学部 経営学科 高尾美波

今回、「オンラインSDGs 海外ボランティア研修」を通して最も印象に残ったことは、カンボジアの子供たちとスカイプを通して交流をしたことです。交流の趣旨としては、私たち日本人がゲームを通して子供たちに日本語を教えるというものでした。交流する前、私は子供たちとうまく交流できるのか不安でした。しかし、スカイプを繋ぐとすぐに子供たちの笑顔が画面いっぱいになり飛び込んできました。私は子供たちの笑顔から元気をもらいました。また、このようなコロナ禍でも、できることはあることに気付きました。さらに、SDGsについて学ぶ中で、日本での暮らしがどれほど恵まれているのかを実感しました。世界の問題を自分事として捉え、SDGsの目標達成に向け、できることから始めていきたいです。

[2019年度実施]

2019年度の対象プログラムでは、カンボジア、インドネシア、ネパール、中国、フィリピンなどで、学生たちが活動しました。

①Think&Act グループワークキャンプ

活動国：ネパール

参加団体：NPO法人NICE

活動期間：2019年9月2日～9月15日

内容：小学校での英語の授業や施設整備、ゲームなどを通じた異文化交流



文学部 外国語学科 英語専攻 江口花凜

「実際に行って、自身の目で見る」ことの大切さを、ネパールへ行った際に実感しました。現地の方々は、日本の様に便利な機械が無い中、シャベルやカマのみを使用し、山の上にある病院まで水路を繋げていました。環境が整っていない場所だからこそ、この活動に対する現地の方の熱い想いに、より胸を打たれました。非日常な経験が出来ることも、海外ボランティアの魅力です。是非、参加して欲しいです！

②FIWCチャイナキャンプ

活動国：フィリピン

参加団体：FIWC九州

活動期間：2019年8月12日～8月31日

内容：昨年作製した水道設備の事後調査、
次の春にワークを行う村の下見



国際文化学部 国際文化学科 田中凜花

私は海外ボランティアを通して、様々な考えを持つことができるようになりました。大きく自分の考えが変わった点は、ボランティアが現地の人に与える影響です。国際支援のあり方について深く考える機会となりました。旅行でも留学でもなく、ボランティアで行くからこそ、気がつき、考えることが多くありました。夏に調査企画して、今後の春に実施します。今後の春のボランティアでは、村人にとっても自分にとってもさらに良いものになるように、最大限に努力したいです。

③カンボジアスタディツアー

活動国：カンボジア

参加団体：ボランティアプラットフォーム

活動期間：2019年8月30日～9月5日

内容：村の小学校で日本語・英語教育



法学部 国際関係法学科 石橋穂乃

私はカンボジアで英語と日本語を小学生に教えました。その中で一番大切だと思ったことは、五感で感じることです。私は発展途上国に興味があり、本や資料でみたり調べたりしていましたが、実際に行き、五感をフル活用してからこそ分かったことが多くありました。また、勇気を出すことで、たくさんの素晴らしい人や物との出会いが待っていることを、ボランティアに参加して感じました。

ベイラー大学との交流ボランティア※2018年度実施 (2019年3月13日～16日)

協定校であるアメリカのベイラー大学との交流ボランティアで、日本とアメリカの大学生が一緒にボランティア活動することにより、文化の違いも含め、さまざまな社会問題について考える機会とし、本学からは10名、ベイラー大学からは11名の学生・教職員が共に活動しました。



商学部 商学科 喜久田祥子

私は、2019年の3月14日～3月16日に、ベイラー大学とのミッショントリップに参加しました。活動内容としては、子ども食堂での手伝いや子供達との交流、久山療育園でのウォークラリーなどでした。とても充実した時間をベイラー大学の学生達と過ごすことが出来、別れが惜しかったです。この3日間での出来事、経験は今の自信にも繋がっています。皆さんも是非ボランティアに参加してみてください！

学生サポーター

各市区町村の教育委員会と連携し、各学校の要望に応じて活動するプログラムで、活動する学生を“学生サポーター”と呼んでいます。学生サポーターは、活動先の各学校において主に、授業や学校行事、クラブ活動の支援をしています。社会人としての経験に加え、教育現場で児童生徒と直接接することで教育活動を体験できる良い機会となっています。教職を履修していない学生も参加できます。

※詳細はポータルや説明会で確認してください。

4月下旬に説明会を開催する予定です。年間を通して、相談に応じています。

○西南学院大学 福岡市における学生サポーター活動実績（2004年度から開始）

年度	学校数	人数	年度	学校数	人数
2012年度	23校	88名	2017年度	38校	78名
2013年度	27校	84名	2018年度	26校	81名
2014年度	29校	85名	2019年度	22校	62名
2015年度	24校	76名	2020年度	19校	25名
2016年度	41校	100名			

※学習指導員15名（同年度限定の取組み）



人間科学部 児童教育学科 重富泉（小学校で活動）

将来小学校教諭を志している私にとって、学生サポーターは子どもの様子や授業の進め方を学ぶ有意義な機会になりました。新型コロナウイルスの影響の中でも、工夫して授業を行ったり、感染対策をしながら行事を開催していく先生方や子どもたちの姿を見て、どんな状況にあっても子どもたちが楽しく学べる環境を作ることができるような教師になりたいと思いました。そのためにも大学ではまず、基礎的な指導案の作成や授業の進め方、学級運営の仕方などをしっかりと学び、子どもたちとの関わり方についてさらに経験を積んで改善していきたいです。

文学部 外国語学科 英語専攻 竹内秀一（小学校で活動）

私が学生サポーターを志望した理由は、新型コロナウイルスの影響でオンライン授業になり、自由に使える時間が増え、その時間を教育に携わる活動にあてたいと思ったからです。学生サポーターとして授業の手伝いをする中で、ひたむきに九九の暗記や縄跳びの技を練習する児童の姿に励みももらっています。私がこの活動を通して学んだことは、児童一人一人と親身に向き合うことの大切さです。一人一人が持つ背景を理解し、その子の考えを尊重しながら指導をする先生方を目の当たりにし、教育の難しさ、凄さを日々実感しています。

文学部 英文学科 小松那椰子（中学校で活動）

私は主に放課後の勉強会で生徒をサポートしておりました。放課後勉強会は、一斉授業でのサポートよりも生徒との距離が近く、学習塾とは違って授業後の新鮮な質問が多い印象でした。活動の中でも日本語が話せない外国人生徒の日本語の授業のサポートは一番面白く感じました。私は教職科目を履修していますが、実際に教員の方が働かれている様子を身近で見ることでできたことは勉強になりました。教育現場に立ち入ることはなかなかない機会ですので、良い体験になったと感じております。

人間科学部 社会福祉学科 原野柊司（中学校で活動）

社会に何か貢献したかったことから僕はこの活動に参加しました。多くのクラスの授業で先生方のアシスタントをしましたが、生徒たちの姿から学ぶことの意味を知りました。特に3年生は授業開始と同時に真剣な表情に変わるので、僕自身も彼らに働きかけようと奮い立たされました。学ぶことが自分と真っ直ぐに向き合うことである、それがこの活動を通して僕が得たことです。語りつくせませんが、僕は1年生で活動して多くを学べたので新入生の皆さんも挑戦してみることに損はないと思います。僕は今後、自分と向き合う機会を大切にしていきます。

⑧ 他機関連携

(2020年度実施)

①「MIRAI Map®(夢×SDGs)を作ろう！」オンライン講座(9月23日、30日)

生き方のデザイン研究所からひふみコーチfor school 認定ファシリテーターの講師をお招きし、オンラインにて2回の連続講座を開催。ワークブックを用いて、「地球よし→社会よし→自分よし→まわりの他者よし」という4つの視点からSDGsと自分の未来を重ねて描いていきました。最後にMIRAI Map®を作成し、一人ずつ実現するべく言葉とともに発表しました。

人間科学部 社会福祉学科 東祐楽

今年はコロナ禍という厳しい状況下が続き、対面を通して人との交わりが簡単にできませんでしたが、このような機会を頂けた事で普段なら必ずと言っていいほど触れ合う事ができない方とオンラインで関わりを持てたことが非常に貴重だった。学部を越えての交わりだったこともあり、自分の考えや思いを他者に伝えて、更に他者からの意見を聴く事で、私一人の拙い能力では考えたこともなかった事柄に触れ考えさせられる事が多々あった。そして、「This is me」という言葉にすぐ支えられたように思う。知識や知恵だけでなく、心までもが満たされたMIRAI講座であった。

経済学部 経済学科 高妻あい

今までこうしたボランティア活動には参加したことが全くなかったのですが、思い切って参加してよかったと思います。ボランティアに参加すると言うと、誰かのために、社会のために、という目的があるのが前提というイメージがあります。しかし、私は人との繋がりを感じたい、ということとは似つかぬ動機で参加しました。コロナ禍で学校に行くこともなく、サークルも対面では活動していないため、孤独を感じる時間が多く、精神的に参っていたところがあったからです。活動には気軽に参加でき、そして参加者の皆さまも温かく迎えてくださって、とても楽しかったです。この温かな時間がボランティアにもなるという点においても、素晴らしい体験でした。



②オンライン手話講座(10月7日、10月14日、10月21日)

NPO法人障がい者相互支援センターMCPの方を講師にお招きし、2時間講座を3回に分けて、連続講座としてオンライン手話講座を開催しました。

第1回：障がい理解(情報保障)・第2回：はじめての手話(ろう文化と手話の基礎)・第3回：はじめての手話(自己紹介)

法学部 法律学科 山口温菜

手話講座は、去年に引き続き2回目の参加でした。今年はオンライン上ではありましたが、耳に障がいを持ってある方の困っていることや、具体的な手話を知る、とても良い機会になりました。コロナ禍において、マスクをしていることによって、口の動きが読み取りづらくなってしまったということを知り、とても驚きました。また、手話は1つの手段であり、完ぺきではない。一番大事なのは、人への思いやりである、と改めて気づくことができました。講座に参加した後、耳が聞こえない方と接する機会があったのですが、教えていただいたことを思い出しつつ、お話しすることができました。これからも、もっと手話について、学んでいきたいです。

人間科学部 心理学科 木梨絢

手話を学ぶのは初めてということに加えて、今回はオンライン上での講座ということで、緊張感は拭えませんでした。終始楽しく活動することができました。講師の先生も私たち学生のリアクションを促してくれたため、合計3回の講座すべてを集中して受けることができました。講座は終了しましたが、手話に関する勉強を自分なりに続けていきたいと思っています。

また、2019年度は、「ノートテイク」という聴覚障がいを持つ学生の耳の代わりとなり、授業などその場の「音」を「文字」にして視覚的に伝える支援の方法や、視覚障がい者支援のための、ガイドヘルプ実践など理論と実践をゲームに交えて楽しく学びました。



③野芥校区学習支援ボランティア（11月28日、12月26日）

野芥公民館にて、小学生を対象とした調理・学習支援ボランティアが実施されています。今年度は、新型コロナウイルス感染症防止の観点から、学習支援ボランティアのみに参加しました。そこでは、学生たちがボランティアとして、子どもたちに宿題や勉強を教えながら楽しく活動しました。

法学部 法律学科 江頭千優

小学1年生は入学早々休校であったにもかかわらず、一生懸命勉強していました。小学1年生で30分以上集中力が持つのはすごいことだと思います。平日に授業が終わった後、保護者がまだ帰っていない家庭の子供が利用する放課後児童クラブのような活動だと感じました。小学4年生で野芥公民館にあった算数の問題集を使って勉強していた子はまだ学校で習っていない問題にも積極的に取り組んでいました。まだ緊張してうまく話せない子もいましたが、笑顔を見せてくれて嬉しかったです。できるだけ小学生が自分で問題に挑戦するために少し教えてみて、できなかったらもう少しヒントを出すというように最後まで教えないようにしました。

人間科学部 心理学科 峰大貴

今回、子供たちと学習するボランティアに参加しましたが、とても良い時間でした。自分が持っていたイメージではもっと堅いイメージで地域に貢献するという意識が第一と考えていました。しかし、実際に参加してみて、子供たちと楽しみながらその場を過ごすことだけでも、十分にボランティア活動になっているのだと分かりました。そして、地域の方や親御さんに感謝の言葉を頂いた時はやりがいを感じる事が出来ました。より多くの地域でボランティアに積極的な雰囲気が出来れば良いと感じています。



④ボランティア入門オンライン講座 ～ボランティアへのはじめての一步～（12月2日）

日本ボランティアコーディネーター協会（JVCA）から講師をお招きし、ボランティアの基礎や対話について学ぶ講座をオンラインで開催しました。コロナ禍の今、自分たちに何ができるかを参加者同士で考えを出し合ったり、意見交換することで対話の重要性も学ぶことができ、ボランティアについて視野を広げることができました。



外国語学部 外国語学科 重富咲妃

コロナ禍で色々なことが制限され、初めての環境で人々の気持ちに余裕がない中、ボランティア活動をするのは難しいのではないかと感じていましたが、今できることはたくさんあると気づきました。例えばインターネットで瞬時につながるからこそ助けを求める人に迅速に対応できるなどです。世の中をよりよくしたいという気持ちこそがボランティアの始まりであり、世界がボランティア精神で満たされれば今よりもっと過ごしやすく平和な世の中になっていくのではないかと思います。助けを必要としているが「助けて」と言えない人、ボランティア活動を知らない人に対しどのように活動の輪を広げていくかが今後の課題だと思いました。

人間科学部 社会福祉学科 大坪未祐

ブレイクアウトルームの活用がとても良かったです！他の人の話をじっくり聞くことで、知識や価値観を広めることができました！特に、「コロナ禍でもできるボランティア」について考えるのが、とても興味深かったし、ボランティアしたいなという意欲が湧きました。また、個人的に、実習先から「コロナ禍でもできるボランティアについて考えてきて！」という宿題を出されていたので、とても参考にまりました。今後もこのような機会があれば是非参加したいなと思います。

人間科学部 社会福祉学科 森山日菜

今回の講座で、ボランティアに関する知識はもちろん、実際にボランティアを行った経験のある先輩方のお話も聴くことができ、とても充実した時間を過ごすことができました。今まで、ボランティアについては授業でしか学んだことがなかったのですが、実際に経験したことのある方々は、やはり視野も広く、アイデアもとても豊富で感激することが多かったです。現在は新型コロナウイルスの影響で思うような活動ができませんが、このようなご時世だからこそ、何かできることのないか考え、行動に移すことのできるようボランティア活動に携わる第一歩を踏み出していこうと思います。

⑤国際協力NGO カレッジ「SDGsと私たちの生活」オンライン講座（全6回） （1月20日、30日、2月10日、20日、3月3日、13日）

NGOの活動や世界規模の現状を知り、自らできることを考える学習機会の場として、開催してきたNGOカレッジ。NGO福岡ネットワーク（FUNN）と、東京・垂井（せんと・たるい）と連携し、昨年に引き続き、今年もSDGsを取り上げ、講義形式とワークショップを交互に行う連続6回のオンライン講座を開催しました。各回講師をお招きし、日常生活からSDGsを考え、一人ひとりの行動がより大きな広がりになるよう、最後は自分のアクションプランを宣言しました。



人間科学部 心理学科 加藤涼香

講座への参加を通して、日常生活に密着したSDGsの実践方法を考えることができました。SDGsに関連した、岐阜や三重で行われている自然環境を改善する取り組みについて学ぶことができ、福岡に住み続ける私にとって初めて知る情報がたくさんありました。講座内では、少人数グループに分かれて話し合う時間もあり、NGOの方や他県にお住まいになる社会人の方々と考えを共有しました。全体発表の場では、参加者全体の感想や疑問点が共有され、1人では辿り着けなかった発想や考え方に触れることができました。年代や住む地域の異なる参加者同士が、オンライン上でつながり一緒に学ぶ貴重な機会となりました。

⑥オンライン「ありがとう講座」(3月1日)

一般社団法人笑い文字普及協会の方を講師にお招きし、オンラインで「ありがとう講座」を開催しました。ありがとう講座とは、笑い文字初級講座です。「笑い文字」とは、筆文字で「ありがとう」の文字の中に満面の笑顔を描く、書いて半分、渡して完成のコミュニケーションツールです。「ありがとう」を伝えることを大切にしている本学で、被災地支援活動の事前研修としても取り組んでおり、東北や各地でのボランティア活動の時に「ありがとう」の笑い文字ハガキをお渡ししています。



〔2019年度実施〕

⑦ 久山療育園重症児者医療療育センター

西南学院と同じ日本バプテスト連盟の関連施設で、重度の知的・身体障害を重複する障がい者に対して、医療・看護・機能訓練・保育などを行っています。重症心身障がい者が社会の片隅に收容されて生きるのではなく、むしろ地域の中心に位置づけられることを願って設立された施設です。本学では、定期的に交流し、ボランティアやスタディツアー講習会、チャリティイベントなどを開催します。



運動会ボランティア

文学部 英文学科 奥千夏

久山療育園には、運動会で初めて訪問しました。この運動会への参加を通じて私の視野は広がりました。私が担当させていただいた方は私より10歳上の女性の方で、そのお父様もご一緒でした。その方とお話をするなかで感じたのが、娘さんとの意思疎通は決して一方通行でないということでした。私が娘さんに声をかけたり、手を握ったりするとわずかな反応があり、それがとても印象に残っています。

開園祭ボランティア



文学部 外国語学科 フランス語専攻 永嶋玲奈

私は今回で2回目となるボランティア活動への参加でした。担当した場所は、久山療育園利用者の方との触れ合いコーナーです。利用者の方だけでなく、ご家族のみなさんやスタッフの方など多くの方との触れ合いを通して、人の役に立つことの喜びや大切さを学ぶことができました。利用者の方達の笑顔を見ることができ私自身も嬉しくなり、とてもいい経験になりました。

⑧ NGO合同説明会 in 西南学院大学

NGO 福岡ネットワーク (FUNN)と連携し福岡近郊で活動するNGO 団体の合同説明会を実施しました。

団体毎にブースを設置し、団体の活動紹介、スタディツアーやワークキャンプの紹介、NGO入門講座など、福岡のNGO活動について、一度に話を聞くことのできる貴重な機会となりました。学生の体験談なども聞くことができ、実際に学生たちが、海外ボランティアに一歩踏み出して活動しました。

<参加団体>

- ・NPO法人エスペランサ
- ・特定非営利活動法人バングラディッシュと手をつなぐ会
- ・NPO法人NICE (日本国際ワークキャンプセンター)
- ・フレンズ国際ワークキャンプ九州委員会 (FIWC九州)
- ・一般社団法人ミドリゼーションプロジェクト
- ・一般社団法人CIEE国際教育交換協議会
- ・一般社団法人ボランティアプラットフォーム (ぼらぷら)
- ・(特活)NGO福岡ネットワーク (FUNN)



文学部 外国語学科 英語専攻 内村早希

今回の合同説明会で、現在の世界の貧困の現状についての知識を深め、今私たちにできることは何かを考えることができました。8つのNGO団体の方と直接お話をしたり、質問できるブースがあり、海外ボランティアに対する興味・関心をより高める良い機会になりました。国内・海外ボランティアに興味がある人はぜひ参加してみてください！

⑨ 学内ボランティア

① 入試課



西南オープンキャンパスボランティア

毎年、2日間で約7,000人が来場し、西南学院大学の魅力を伝える重要なイベントです！運営スタッフの活動は、学生相談員や在学生講演会、キャンパスツアー、クラブ活動紹介などがあります。2日間で延べ200名もの学生が活動しています。

※2020年度はオンライン実施のため募集なし

場所：中央キャンパス 3号館 2階

TEL：092-823-3366

Mail：nyuushi@seinan-gu.ac.jp

② 国際センター



留学生サポートボランティア

世界30ヶ国以上から来る留学生をサポートする学生ボランティアを募集しています。

留学生パディや日本語学習チューター、日本語会話パートナーなどの活動があります。

場所：中央キャンパス 3号館 1階

TEL：092-823-3346

Mail：intleduc@seinan-gu.ac.jp

③ 広報・校友課



広報誌「SEINAN Spirit」ボランティア

在学生を対象とした広報誌を年4回発行しています。広報誌に関する学生のみなさんの視点や意見を取り入れるために、企画会議、意見交換会を行っています。

場所：東キャンパス 本館 2階

TEL：092-823-3248

Mail：koho@seinan-gu.ac.jp

④ 大学博物館



博物館ワークショップボランティア

博物館でワークショップを行う際に、ボランティアを募集しています。

詳細は、日程等が決まり次第、ボランティア登録メールや、博物館ホームページ等でお知らせいたします。

場所：大学博物館、学内等

TEL：092-823-4785

Mail：museum@seinan-gu.ac.jp

⑤ 聖書植物園



大学では、聖書に登場する植物を集めた「聖書植物園」を管理運営しています。その植物園の維持に必要な草取り等の活動を行っています。

活動日：毎月 第3 土曜日 9:00～12:00

持ち物：軍手、帽子、タオル

参加方法：9:00 5号館前現地集合（小雨決行）
（予約・申込なし。当日参加O.Kです!）

問合せ先：総務課 092-823-3201

夜間・休日 092-841-1316

⑥ 西南子どもプラザ



本学の学生で、ボランティアや西南子どもプラザに興味のある方であれば、学部、経験は問いません。クラブ・サークル単位での参加も歓迎します。

対象：本学学生

活動時間：9:00～17:00の都合の良い時間（日曜除く）

場所：西南子どもプラザ

活動内容：来館した親子と遊ぶ・おもちゃの制作や消毒・
行事の手伝い

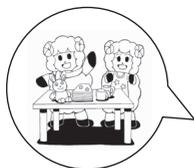
外国人親子との会話の手助け 等

申込み方法：問合せ先へ連絡し、子どもプラザボランティアに登録する。（随時受付）

問合せ先：西南子どもプラザ 092-846-9207

☐ 学外ボランティア

ボラセンには、学外の様々な団体からボランティアの依頼やイベント、スタディツアーなどの案内があります。例えば、イベントスタッフ、着ぐるみのボランティア、清掃、子ども会イベント補助、学習サポーター、福祉施設でのボランティアなど、さまざまな分野の情報がたくさんあります。まずは、ボラセンに来て探してみてください。



下の表は一例ですが、ボランティア活動にはたくさんの種類があります♪ 活動を始めるヒントにしてくださいね♪



対 象	種 類	内 容
大 人	自然環境	海浜美化活動（ごみ集め）、街や公園の清掃活動、植樹 など
	国際交流 国際協力	ワークキャンプ、スタディツアー、難民支援（洋服回収）、留学生支援、硬貨の仕分け（国別）、日本語指導、イベントのお手伝い など
高 齢 者	災害支援 防 災	被災地支援、がれき・土砂の撤去、家屋の片付け、復興支援イベントの企画・実施、避難訓練の参加、募金活動 など
障がいの者	イベント	着ぐるみ、受付、設営・片づけ、手拍子やかけ声、レクリエーションの補助、出し物、遊園地の付き添い、ポスター作成、介護補助 など
外 国 人	まちづくり	村おこし・地域おこしの活動、交流の場づくり、社会参加の協力（補助）、イベントの企画・運営 など
動 物	教 育	学習指導の補助、通訳、ノートテイク、ワークショップ開催、遊び相手、レクリエーションの指導、 など
植 物	動 物	小屋の清掃、お散歩、お世話、被災動物の保護活動 など

学生グループ活動（サークル紹介）

本学には、サークルをはじめ、たくさんのボランティア団体があり、それぞれがテーマや目標を持って取り組んでいます。興味のある方は、ボランティアセンターまでお問い合わせください。

(1) 学生スタッフOPEN

活動日：毎週金曜日の昼休み
活動場所：1号館の教室もしくはチャペルセンター
代表者：井上碧（人間科学部 心理学科）

OPENとは…（ボランティアセンターの学生スタッフです＾＾）
O…Opportunity *ボランティアの紹介を通じて出会いの“機会”を！*
P…Peace *ボランティアを通して“安らぎ”をみんなの心に！*
E…Enjoy *西南生が“エンジョイ”できる場作りをお手伝い！*
N…Network *人が“つながる”場所を作ります！*

今までの活動：学内のボランティア（ペットボトルキャップの回収、三角柱作り、チャペル週報の挟み込みなど）、学外のボランティア（災害支援、福祉施設での手伝い・交流等）への参加、講師による研修会、サークル内での交流会

今後の活動：ボランティアの企画・運営、参加+広報活動、サークル内での交流会、他ボランティアサークルとの交流

こんな人集まれ!!：ボランティアを企画・運営したい人、ボランティアに興味がある人、ボランティア仲間が欲しい人、他サークルとの掛け持ちOK!! ぜひ一度、見学にきてみてください!



学生スタッフOPENの活動

ボランティアセンターには、学生スタッフ「OPEN」が、さまざまな形で活動しています。学生スタッフ研修や、OPEN 企画の説明会やイベントを実施しています。また、全国の大学ボランティアセンター学生スタッフが交流する学外の研修会にも参加できる機会があります。学生スタッフについては、ボラセンへ問い合わせてみてください。

〔2020年度実施〕

学生スタッフ研修（10月8日）

オンライン交流会（後述）を実施するため、プログラム内容のシミュレーションや役割などについて話し合いを行いました。

人間科学部 心理学科 北野沙也加

今回は、主に新入生企画についてOPENのメンバーとともに考えることができました。OPEN 自体も活動があまりできていない中、画面越しですが久しぶりに顔を合わせて仲間と話す時間は非常に楽しく、新入生のみなさんにも同級生と関わる楽しさを感じてもらいたいと思い、企画を進めていきました。当日のプレゼン内容を考えるところから始まり、新入生に何を伝えたいのか、どのように宣伝すれば良いかの話し合いを重ねていくことは、とても良い経験になりました。今後も、みんなが楽しめるような企画を考えていきたいです。

オンライン交流会（12月16日）

新型コロナウイルスの感染拡大によって、学内で交流する機会が少ない1年生のため、オンラインでの交流会を実施しました。当日は学生同士の交流だけでなく、ボランティア活動を紹介するひとときとなりました。

商学部 商学科 溝口綾音

私は、オンライン交流会の運営をさせていただきました。今回は初のオンラインでの交流会ということでボランティアセンターの職員の方々や外部の講師の先生にたくさんのサポートをしていただき、24期生を対象に開催することができました。交流会では、グループに分かれて記者会見のプログラムや実際に参加したボランティアの発表会、座談会をさせていただきました。ボランティアに興味がある24期と繋がることができ、充実した時間で私自身も嬉しかったです！この交流会が参加した人にとって一歩踏み出すきっかけになればと思いました。

ゆたかカレッジ福岡キャンパスとのオンライン交流会（1月19日）

毎年、ゆたかカレッジ福岡キャンパスの利用者の方との交流会を行っており、2020年度はオンラインでの交流会を実施しました。本学からは10名の学生が参加し、温かな雰囲気の中、お互いに簡単な自己紹介をしたり、利用者の方からの質問に学生が答えたりと楽しい時間を過ごすことができました。

〔2019年度実施〕

学生ボランティア団体合同説明会

学生スタッフOPENの企画で学生ボランティア団体合同説明会を実施しました。ボランティアをしたい！何か楽しいことをしたい！ボランティアに興味がある！どんなボランティアをしたいか悩んでいる人！たくさんの人と話してみたい人！一人ひとりが、団体や活動とつながっていきます。



大学ボランティアセンター学生スタッフセミナー

全国の学生スタッフが一堂に会し、ボランティアについて、ボランティアセンターでの学生スタッフの役割について考えるセミナーに、学生スタッフOPENのメンバーが毎年参加しています。

大学ボランティアセンター学生スタッフリーダーセミナー

大学ボランティアセンターで活動している学生スタッフのうち、運営の中核を担うリーダーを対象としたセミナーで、リーダーとして何をすべきか、楽しくなるミーティングについてなど、全国の学生スタッフと一緒に考えます。

学生ボランティアミーティング

福岡市NPO・ボランティア交流センターあすみん主催のグッドアクティビティフェスティバルにて、大学やサークルの垣根を超えて、これからの社会貢献についていっしょに考える場として、学生ボランティアミーティングが開催され、学生スタッフOPENのメンバーが参加しました。



経済学部 国際経済学科 窪田美来

初めて学生ボランティアミーティングに参加し、さまざまな団体の活動報告を聞きました。同世代の人が実際にボランティアの活動をしていることを実感することができて、私自身とても刺激を受けました。また、活動の内容は違ってもボランティアをしたいという同じ思いをもった同世代がたくさんいることに驚くとともに嬉しかったです。

(2) 西南FIWC九州

活動日：不定期
活動場所：博多びおとーぶ
代表者：久保山亜美(文学部 外国語学科 英語専攻)

FIWC九州は、福岡を拠点にワークキャンプというボランティアの形で国際協力・国際交流を行う学生団体です。主に所属している学生は、九州大学や西南学院大学などです。活動を行っている国は、フィリピン、中国、インドネシア、ネパール、日本の5ヶ国で、各国によって行っている活動は様々です。

春と夏の長期休暇を利用して現地で活動を行います。現地調査から資金集め、インフラ整備などの活動を、自ら企画・運営できるのが、学生だけで運営しているFIWC九州の特徴です。現在は新型コロナウイルスの影響で渡航が難しいですが、国内のイベントを充実させて渡航できる日に向けて準備をしています。田川郡福智町での地域創生キャンプ、大分県中津市耶馬溪での農業キャンプなどもありますので興味ある方はご連絡ください。

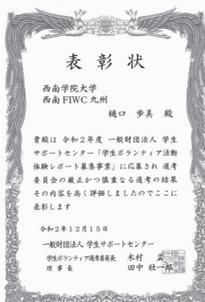


FIWCYUSHU



学生ボランティア団体助成

一般財団法人学生サポートセンターが主催する「学生ボランティア団体支援」は、学生のボランティア活動を社会参加の第一歩と位置付け、「自由な発想と行動力」によって、社会貢献を計画・実行している学生の団体を対象に、団体組織の活性化やネットワーク作りなどを経済的に支援し、社会貢献活動を応援するというものです。2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響から、「学生ボランティア活動体験レポート」に代えて実施されました。本学からは、ボランティア団体「西南FIWC九州」の樋口歩美さんのレポートが採択され、団体に助成金が贈られました。



過去の受賞団体

- 2020年度 西南FIWC九州
※「学生ボランティア活動体験レポート募集事業」
- 2019年度 西南FIWC九州
- 2018年度 Pao
- 2017年度 OPEN
- 2016年度 学生YM(W)CA
- 2015年度 Think&Act
- 2014年度 いと
- 2013年度 手話サークルとびうめ
- 2012年度 Mits
- 2010年度 学生YM(W)CA
- 2009年度 西南ラブ・グリーン
- 2008年度 のびっこの会

(3) いと

活動日：未定
ボランティアセンターにお尋ねください

皆さんこんにちは！私たちは主に災害支援ボランティアを行っている学生ボランティア団体「いと」です！いとは、東日本大震災をきっかけに“福岡からできる被災地支援”を目的として2013年の春に設立された団体です。「いと」というサークル名には個人の点としての活動の一つ一つ繋げて線にする、という意味が込められています。

いとの活動は、災害時の校内募金活動やチャリティーイベントの開催、大学祭への出店など幅広いです。夏休みには大学で子どもたち向けの防災教室を開いていて、今後は地域の消防団との活動も行っていく予定です。いとでは、自分の予定に合わせて気軽に様々なボランティアに参加できる環境が整っています。大学生活で一度はボランティアに参加してみたいと思っている方！ぜひ一緒にいとで活動してみませんか？



(4) Think&Act

活動日：毎週木曜日
活動場所：代表者にお問い合わせください
代表者：毛利月菜（人間科学部 心理学科）
浦本理子（商学部 商学科）

Think & Act は国際協力、国際交流、国内ボランティアなどを行う学生団体です。国際協力としては、例年夏季休暇を利用し、海外ワークキャンプに参加しています。3年前はモンゴル、2年前はインドネシアとネパールへ行きました。国際交流では例年だと西南学院に来ている留学生との交流を行っており、実際に、毎週木曜日は一緒に活動をしていました。そして、国内ボランティアでは東北の被災地への支援や福岡市海浜公園主催のボランティア、西南学院子どもプラザのイベント支援など様々な活動に参加しています。毎週の活動では、例年クリスマスパーティなどの季節に合わせた活動をしており、今年はコロナで集まらなかったため、Zoomで様々な企画をして仲を深めました。雰囲気としては、すごくアットホームなサークルです！気になる方は、気軽にご連絡ください！



(5) SIEC (西南国際教育協力隊)

活動日：未定（通常授業では週に1～2回、遠隔授業では不定期）

活動場所：西南会館会議室、ZOOM

代表者：佐伯颯太（人間科学部 児童教育学科）



私たちSIEC（西南国際教育協力隊）は、他大学と共同で「すべての子どもたちに行き届いた教育を届けるプロジェクト」として、毎年3月と11月の年2回カンボジアに渡航し、都市部にある学校から郊外にある学校まで幅広い地域で教育支援を行っています。一昨年からラオスでの支援も開始し、3月にはラオスにも渡航しています。具体的には、運動会の開催や体育・音楽・図画工作などの提案授業、児童養護施設訪問を行っています。近年は科学の授業も取り入れるなど、支援の内容が幅広くなっています。しかし、昨年は新型コロナウイルスの感染拡大によって、3月の渡航を断念する形となってしまい、非常に悔しい結果となりました。今年も現地への渡航は難しい状況が続いているため、国内での活動が主になっています。

国内では、学内や近隣の小・中学校、自分たちの母校に寄付（赤白帽子、ノート、筆記用具、楽器、夏用衣料など）を募っています。この寄付物は、現地で運動会や授業に参加してくれた子どもたちに参加賞として一人ずつ手渡ししています。また、定期的に他大学と会議を行い、渡航に備えて運動会や提案授業の内容を考えたり、現地で使うものを作ったりしています。さらに、大学祭では模擬店で、実際に現地で購入したカンボジアコーヒーを販売したり、教室企画でポスターを掲示したりして、私たちの活動を紹介しています。各々が他のボランティア活動に参加したときには情報共有を行い支援とは何かを考えながら日々活動しています。

(6) ワークキャンプ部

活動日：毎週水曜日

活動場所：西南会館5階

代表者：篠原健吾（人間科学部 社会福祉学科）

ワークキャンプ部は2

大学合同（九州産業大学、

西南学院大学）の福祉系

ボランティアサークルです。全体で約50人のメンバーが異なる訪問先を持つ5つのグループに分かれて、月2.3回程度それぞれの施設を訪問し、子どもたちや入所者さん、高齢者の方々と交流しています。たくさんの人との出会い、日常生活では体験できないことがみなさんを待っています！私たちと一緒に大学生生活を楽しみませんか？連絡をお待ちしています！！



(7) のびっこの会

活動日：第2・第4土曜日の午後
活動場所：5号館
代表者：安武仁千華(人間科学部 児童教育学科)
連絡先：nobikko.no.kai@gmail.com

のびっこの会は、軽度の障がいをもった子どもたちやその兄弟児と一緒に遊ぶサークルです。2008年度に国際ソロプチミスト福岡—中央よりシグマソサイエティとして承認さ

れました。毎月第2・第4土曜日のお昼から主に5号館で活動しています。現在は30名の学生が在籍し、15名ほどの子どもたちと交流しています。

活動では工作をしたり、お菓子を作ったり、夏にはキャンプ、冬にはクリスマス会を行ったりします。活動内容の決定や準備などは学生たちですべて行い、そのために毎週火曜日の昼休みに学生が集まって話し合いをしています。

現在では2020年から新たな取り組みとして、オンライン(zoom)で子どもたちと交流を深めています。子どもたちを笑顔にさせ、活動の幅を広げられるように努めています。興味がある方はぜひ連絡をしてみてください！様々な経験をすること
が出来ますよ！



(8) Pao

活動日：毎月(8月、1月を除く)第2または第3土曜日(子どもたちとの交流活動)、毎月5回程度話し合い、準備(昼休み等)
活動場所：5号館106教室(子どもたちとの交流活動)、児童発達支援センター・ゆうゆうセンター等(話し合い)



私たちPaoは主に発達障がいの障がいがある子どもたちと交流する学生主体のボランティアサークルです。月に一度の子どもたちとの交流活動では“子どもたちの居場所づくり”をモットーに、運動会、クリスマス会などの季節に合わせた活動や、室内・屋外遊び、お出かけ、大学祭めぐりや工作、クッキングと様々な活動を行っています(8月と1月を除く)。また、児童発達支援センター・ゆうゆうセンターの方にアドバイスをいただきながら、Paoに参加する子どもたち一人ひとりの特性を考慮し、子どもたちが楽しめることももちろん、心に残る思い出や成功体験の機会をつくり、子どもたちの自信に繋がれるような居場所づくりを目標に活動を考えています。

ほかにも、年に2回学習会(ゆうゆうセンターの方によるワークショップ形式のセミナーetc)を開き、障がいについての知識を得たり、学生間で意見交換を行ったりして、日々の活動に活かしています。

Pao最大の魅力は、学生主体であり、学年の壁がないため誰でも気軽に子どもたちと一緒にしてみたいことを企画し挑戦できることです！その活動で子どもたちと一緒に楽しく遊び、子どもたちの笑顔に触れて、元気をもらいます！興味がある方はぜひ一度活動に参加してみてください！体験も大歓迎です！連絡をお待ちしています！



(9) 手話サークル とびうめ

活動日：毎週水曜日 4時限目
活動場所：チャペルセンター、Zoom
代表者：木原真子（人間科学部 社会福祉学科）
連絡先：seinan.tobiume@gmail.com

私たちは、毎週水曜日4限に集まり、指導者の方のもと手話やろうあ者の生活・文化などを学んでいます。学途中で難しいこともありますが、毎週楽しく活動してい

ます。また、手話検定にも積極的にチャレンジしています。さらに活動日以外にも手話カフェなどに出かけ、当事者の方々と交流しています。難しいと思われるかもしれませんが、少人数のサークルなので、メンバー同士の交流も密にとることができ、楽しく学べるサークルとなっています。手話に興味がある方、参加を考えている方、ぜひ連絡をお願いします。



(10) 学生YM(W)CA

活動日：毎週水曜日 15:30～
活動場所：1号館410教室（部会）
代表者：佐藤颯（法学部 法律学科）

私たち学生YM(W)CAは、5つの班に分かれてそれぞれのテーマに沿ったボランティアを行っています。小学生と一緒に

近くの公民館で様々な体験をしたり、施設に行き、障がい者の子どもたちと遊んだり、また、たくさんの外国の子どもたちに勉強を教えたりしています。他にも、ユニセフ募金、地域清掃など幅広いボランティアをさせていただいています。ボランティアをして、たくさんの人と関わることで、人と触れ合うことの楽しさ、そしてボランティア自体の楽しさを学ぶことを目標とし、活動しています。



(11) 西南ラブ・グリーン

活動日：不定期
活動場所：福岡ヤフオク!ドーム・福岡市役所・
西新商店街など
ボランティアセンターにお尋ねください

西南ラブ・グリーンは、e c o活動・地域と商店街でのボランティア活動を行っています。

福岡工業大学、中村学園大学、九州大学、福岡女学院大学、福岡女子大学など他学校と200名のネットワークを構築して、市役所などの行政や、企業、地域、商店街と連携して活動しています。福岡ソフトバンクホークスとのドームでのクリーンアップ活動、海岸清掃、SUN SET LIVE という野外フェスや、大学祭でのゴミ0推進活動、エコ食器・ゴミ分別ブース運営などのほか、学童保育施設の子どもたちへのボランティア活動や、地域商店街のお祭り運営・企画のボランティアもを行っています。



印刷機・紙折機・裁断機の使用（無料）について

利用できる団体

・学生課で「ボランティア団体」として公式に登録し、ボラセンが許可した団体

利用の手続き

- 印刷機・・・(用紙については各自で用意すること)
- ・ボラセンで、学生証と引き換えに印刷機利用カードを受取り、使用する。
 - ・使用申込書に団体名、使用枚数を記入し、使用する。
 - ・使用后、ボラセンで印刷機利用カードを返却し、学生証を受取る。

紙折機・裁断機

使用前・使用後に、ボラセンに団体名などを告げる。

活動室の利用について

利用できる団体

- ・学生課で「ボランティア団体」として公式に登録し、ボラセンが許可した団体
- ・団体設立に向けて検討中の場合は相談すること。

利用の手続き

ボラセンで活動室の予約をする。

【利用可能な時間】

通常期間 月～金 9:00～17:00

※長期休暇中や行事などで閉室する場合があります。



ボランティア活動保険

ボランティア活動中や行き帰りにケガをした時、また活動先の物を壊したり、人にケガをさせた場合に補償をするのが「ボランティア活動保険」です。

万が一の備えや安心して活動が出来るよう、活動の前に参加してください。

※ボランティア保険は、自治体によって異なりますが、主に300円前後の掛け金で、万が一の事故を補償してくれます。

(加入日の翌日から当該年度の3月31日まで有効)

加入申込の手続き

各市区町村の社会福祉協議会



その他

社会福祉協議会(社協)

地域に暮らす高齢者や障がい者をはじめ、すべての市民が住み慣れた地域で、安心して住める福祉のまちづくりを目指しながら、地域の様々な福祉課題を解決していくために、社会福祉事業の企画・実施・ボランティア活動の推進、福祉関係者の連絡調整等を行っている団体です。また、全国、都道府県、政令指定都市、市区町村にそれぞれ設置されています。

※「社会福祉協議会」は、長い名称なので、略して「社協(しゃきょう)」とも呼ばれています。



1

社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会

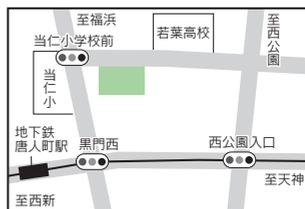
〒816-0804
福岡県春日市原町3-1-7
福岡県総合福祉センター(クローバープラザ)内
tel.092-584-3377
fax.092-584-3369・3381



2

社会福祉法人福岡市社会福祉協議会 ボランティアセンター

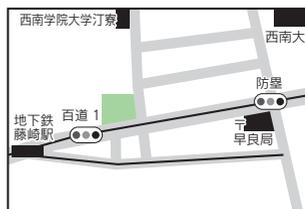
〒810-0062
福岡市中央区荒戸3丁目3-39
市民福祉プラザ2階
tel.092-713-0777
fax.092-713-0778



3

社会福祉法人福岡市早良区社会福祉協議会 早良区ボランティアセンター

〒814-0006
福岡市早良区百道1-1-1
UMIBE B.L.D 1階
tel.092-832-7383
fax.092-832-7382



2020年度ボランティアセンター活動記録

被災地支援・防災・海外・教育・福祉・講座など		被災地支援・防災・海外・教育・福祉・講座など	
4月	<ul style="list-style-type: none"> カンボジア運動会プロジェクト（通年） ※寄付BOX設置 ※学生ボランティア団体 	10月	<ul style="list-style-type: none"> 第1回オンライン手話講座（10/7）【障がい者相互支援センターMCP】 学生スタッフ研修（10/8）【（株）ラーニングバリュー】 第2回大学生災害ボランティアオンライン講座（10/14） 第2回オンライン手話講座（10/14）【障がい者相互支援センターMCP】 <第5弾>修学支援（食料品等配付）（10/16） 第3回オンライン手話講座（10/21）【障がい者相互支援センターMCP】 オンラインSDGs 海外ボランティア研修（フルコース：全12回） 学生サポーター（学習支援他）
5月		11月	<ul style="list-style-type: none"> 第1弾「被災地にクリスマスカードを届けよう！プロジェクト」【東北】（11/9～11/27） <第6弾>修学支援（食料品等配付）（11/13） 2019年度海外ボランティア・ワークキャンプ事後研修（11/13） 第3回大学生災害ボランティアオンライン講座（11/18） 野芥校区学習支援ボランティア（11/28）【福岡未来創造プラットフォーム】 オンラインSDGs 海外ボランティア研修（フルコース：全12回） 学生サポーター（学習支援他）
6月	<ul style="list-style-type: none"> <第1弾>修学支援（食料品等配付）（6/18・6/19） 	12月	<ul style="list-style-type: none"> 第2弾「被災地にクリスマスカードを届けよう！プロジェクト」【熊本小学校・被災地の小学校】（11/30～12/18） ボランティア入門オンライン講座～ボランティアへのはじめての一歩～（12/2） 24期生対象！オンライン交流会（12/16）【（株）ラーニングバリュー】 第4回大学生災害ボランティアオンライン講座（12/17） <第7弾>修学支援（食料品等配付）（12/18） うきはベース（12/19） うきはベース（12/20）中止 野芥校区学習支援ボランティア（12/26）【福岡未来創造プラットフォーム】 「学生ボランティア活動体験レポート募集事業」採択【西南FIRC九州】 【学生サポートセンター】 オンラインSDGs 海外ボランティア研修（フルコース：全12回） 学生サポーター（学習支援他）
7月	<ul style="list-style-type: none"> <第2弾>修学支援（食料品等配付）（7/9） <第3弾>修学支援（食料品等配付）（7/30） 	1月	<ul style="list-style-type: none"> 第5回大学生災害ボランティアオンライン講座（1/13） オンライン交流会（1/19）【ゆたかカレッジ福岡キャンパス】 第1回第20期国際協力NGOカレッジ「SDGsと私たちの生活」（1/20） 第2回第20期国際協力NGOカレッジ「SDGsと私たちの生活」（1/30） オンラインSDGs 海外ボランティア研修（フルコース：全12回） 学生サポーター（学習支援他）
8月	<ul style="list-style-type: none"> 「海外ボランティア補助金対象プログラム」 オンラインSDGs 海外ボランティア研修（フルコース：全12回） 【ボランティアプラットフォーム】 学生サポーター、学習指導員オンライン説明会 学生サポーター後期募集受付（8/25～8/31） 【福岡市教育委員会】 	2月	<ul style="list-style-type: none"> 第3回第20期国際協力NGOカレッジ「SDGsと私たちの生活」（2/10） 第6回大学生災害ボランティアオンライン講座（2/17） 第4回第20期国際協力NGOカレッジ「SDGsと私たちの生活」（2/20） オンラインSDGs 海外ボランティア研修（フルコース：全12回） 学生サポーター（学習支援他）
9月	<ul style="list-style-type: none"> <第4弾>修学支援（食料品等配付）（9/10） 第1回「MIRAI Map®（夢×SDGs）を作ろう！」オンライン講座（9/23） 第1回大学生災害ボランティアオンライン講座（9/25） 第2回「MIRAI Map®（夢×SDGs）を作ろう！」オンライン講座（9/30） オンラインSDGs 海外ボランティア研修（フルコース：全12回） 学生サポーター（学習支援他） 	3月	<ul style="list-style-type: none"> オンラインありがとう講座（3/1）【一般社団法人 笑い文学普及協会】 第5回第20期国際協力NGOカレッジ「SDGsと私たちの生活」（3/3） 第7回大学生災害ボランティアオンライン講座（3/8） 第6回第20期国際協力NGOカレッジ「SDGsと私たちの生活」（3/13） 学生サポーター（学習支援他） 《発行物》 2021年度ボランティアガイドブック 2019年度海外ボランティア・ワークキャンプinフィリピン

（ 通 年 ）

- ・弁当容器回収（被災地支援） ・ペットボトルキャップ回収（ワクチン） ・寄付本回収（奨学基金） ・古切手回収
- ・文房具回収（カンボジア支援） ・災害支援金（被災地支援） ・書き損じハガキ回収

2019年度ボランティアセンター活動記録（前期）

通年	被災地支援ボランティア 災害・防災	海外ボランティア 国際交流	その他
4月	<ul style="list-style-type: none"> うきはベース (4/21) 	<ul style="list-style-type: none"> カンボジア運動会プロジェクト(通年) ※寄付BOX設置 ※学生ボランティア団体 	<ul style="list-style-type: none"> 学内各部署ボランティア募集合同説明会 (4/19・4/22) 学生サポーター前期募集説明会(4/19)【福岡市教育委員会】 ボランティアの授業 (4/25)【社会福祉学 基礎演習】
5月	<ul style="list-style-type: none"> 「はるかのみまわり絆プロジェクト」種植え (5/9) 朝倉ファムトリップ(5/10～5/11)【西日本新聞】 うきはベース (5/19) うきはベース (5/26) 		<ul style="list-style-type: none"> チャリティーサタ説明会 (5/10)【NPO 法人チャリティーサタ】 久山療育園運動会ボランティア (5/10) 学生ボランティア団体募集説明会 (5/16) 手話&ノートテイク講座 1回目(5/22)【MCP】 手話&ノートテイク講座 2回目(5/29)【MCP】
6月	弁当容器回収 (被災地支援) <ul style="list-style-type: none"> うきはベース (6/1～6/2) うきはベース (6/9) うきはベース (6/15～6/16) 2019年度夏季ボランティア募集説明会 (6/20) うきはベース (6/23) 	<ul style="list-style-type: none"> NGO 合同説明会 In 西南学院大学 (6/5) 【(特活) NGO 福岡ネットワーク (FUNNN)】 	<ul style="list-style-type: none"> 学生スタッフ研修 (6/8)【(株) ラーニング/パビリュー】 手話&ノートテイク講座 3回目 (6/12)【MCP】
7月	ボトルキャップ回収 (リサイクル) <ul style="list-style-type: none"> 防災研修 (7/5)【福岡市】 うきはベース (7/6～7/7) うきはベース (7/20～7/21) 中止 東日本大震災ボランティア事前研修会【大学間連携】(7/23) 東日本大震災ボランティア事前研修会【ハブテスト連盟】(7/30) 	<ul style="list-style-type: none"> 海外旅行保険と学生向け危機管理セミナー (7/10) ※補助金対象者任意参加【大学国際センター】 	<ul style="list-style-type: none"> ありがとう講座 vol1 (7/9)【一般社団法人 笑い文字普及協会】 首道浜小学校夏祭りボランティア ※ボランティアセンター学生スタッフ OPEN (7/20) 「平和と共生の旅」事前研修会 (7/31)
8月	古切手回収 ハガキ回収 文房具回収 (カボツア支援) 災害支援金 (被災地支援) 学生サポーター (学習支援他) <p>※うきはベースとは・・・ 被災地支援を促進させるための宿泊・情報共有・情報発信のための拠点 2019年度は主に以下の内容で活動予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ①サロン活動を通じた住民との交流 ②子どもの遊び場支援 ③土砂が流入した田畑の再生実験を通じた農業支援 ④学習支援など 	<ul style="list-style-type: none"> 海外ボランティア補助金対象プログラム 活動場所: インドネシア (8/7～8/27)【FWC】 活動場所: 中国 (8/9～9/2)【FWC】 活動場所: オーストラリア (8/10～8/27)【OIEE】 活動場所: フィリピン (8/12～8/31)【FWC】 活動場所: インドネシア (8/19～9/1)【Think&Act】 活動場所: インドネシア (8/22～9/6)【NICE】 活動場所: カンボジア (8/23～8/29)【ボラブラ】 活動場所: スパル (8/24～9/8)【FWC】 活動場所: 中国 (8/25～9/2)【FWC】 活動場所: セルビア (8/27～9/19)【NICE】 活動場所: カンボジア (8/28～9/3)【ボラブラ】 活動場所: カンボジア (8/30～9/2)【ボラブラ】 活動場所: カンボジア (8/30～9/5)【ボラブラ】 	<ul style="list-style-type: none"> オープンキャンパス相談員 (8/3～8/4) 子どもたちとの交流イベント【卓球部】(8/10)【田原公民館】 キリスト教を土台として『沖縄・長崎・広島から平和を考える学び合い』(8/19～8/22) 活動場所: 沖縄 【福岡未来創造プラットフォーム】 野芥校区学習支援ボランティア (8/24)【福岡未来創造プラットフォーム】 ありがとう講座 vol2 (8/29)【一般社団法人 笑い文字普及協会】 「平和と共生の旅」(8/31～9/2) 活動場所: 広島
9月	<ul style="list-style-type: none"> 熊本ボランティア 傾聴交流 (9/4) 東日本大震災ボランティア (9/6～9/9)【ハブテスト連盟】 活動場所: 宮城県 うきはベース (9/7) うきはベース (9/13～9/15) 学生企画 	<ul style="list-style-type: none"> 海外ボランティア補助金対象プログラム 活動場所: スパル (9/2～9/15)【Think&Act】 活動場所: オーストラリア(9/4～9/17)【OIEE】 活動場所: 台湾 (9/5～9/9)【OIEE】 第19期 NGO カレッジシブ講座「あなたのそばにあるSDGs」(9/19) 【(特活) NGO 福岡ネットワーク (FUNN)・SDGs 推進ネットワーク in 九州】 	<ul style="list-style-type: none"> 大学ボランティアセンター学生スタッフセミナー 2019 (9/2～9/3) ゆたかカレッジとの交流 (9/17) ※ボランティアセンター学生スタッフ OPEN 久山療育園開園祭ボランティア (9/23) 学生サポーター後期募集受付 (9/25～9/26)【福岡市教育委員会】 野芥校区学習支援ボランティア (9/28)【福岡未来創造プラットフォーム】

2019 年度ボランティアセンター活動記録（後期）

	通 年	被災地支援ボランティア 災 害 ・ 防 災	海外ボランティア 国 際 交 流	その他
10月		<ul style="list-style-type: none"> うきはベース（10/19～10/20） 	<ul style="list-style-type: none"> 第 16 回海外ボランティア・ワークキャンプ募集説明会（10/29） 	<ul style="list-style-type: none"> 伊佐留（国の登録有形文化財）イベント（10/20）※ボランティアセンター学生スタッフ OPEN 野芥校区学習支援ボランティア（10/26）【福岡未来創造プラットフォーム】
11月	弁当容器回収 （被災地支援）	<ul style="list-style-type: none"> 神戸訪問震災学習プログラム（11/2～11/4）【尚絅学院大学】 みやぎ招へいプログラム（11/23～11/24）【東北学院大学】 クリスマスカードの送付【東北】 第一弾【被災地にクリスマスカードを届けよう！プロジェクト】 	<ul style="list-style-type: none"> 第 19 期 NGO カレッジ講座 第 1 回（11/9） 第 19 期 NGO カレッジ講座 第 2 回（11/16） 第 19 期 NGO カレッジ講座 第 3 回（11/23） 第 19 期 NGO カレッジ講座 第 4 回（11/30） 	<ul style="list-style-type: none"> ゆたかカレッジとの交流（11/2）※ボランティアセンター学生スタッフ OPEN 大学祭出店（11/14～11/17）※学生ボランティア団体 野芥校区学習支援ボランティア（11/23）【福岡未来創造プラットフォーム】
12月	ポトトキヤップ回収 （ワカチ） 寄付本回収 （奨学基金） 古切手回収 ハガキ回収	<ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災ボランティア報告（12/8） 報告場所：長任バプテスト教会 ※【ハフテスト連盟】 クリスマスカードの送付【杷木小学校・被災地の小学校】 第二弾【被災地にクリスマスカードを届けよう！プロジェクト】 2019 年度大学間連携災害ボランティアシンポジウム（12/14）【東北学院大学】 	<ul style="list-style-type: none"> 青年海外協力隊体験説明会（12/12）【JICA】 海外ボランティア・ワークキャンプ事前研修 第 1 回（12/18） 	<ul style="list-style-type: none"> 学生ボランティアミーティング（12/7）【福岡市 NPO・ボランティア交流センター「あすみん」】 ※ボランティアセンター学生スタッフ OPEN 学生スタッフ研修（12/21） 野芥校区学習支援ボランティア（12/21）【福岡未来創造プラットフォーム】
1月	文房具回収 （カホリア支援） 災害支援金 （被災地支援） 学生姉妹 （学習支援他）	<ul style="list-style-type: none"> 2019 年度 西南学院大学 ボランティア&平和研修報告会（1/16） うきはベース（1/19） 	<ul style="list-style-type: none"> 海外ボランティア・ワークキャンプ事前研修 第 2 回（1/8） 海外旅行保険と学生向け危機管理セミナー（1/15） ※補助金対象者任意参加【大学国際センター】 第 19 期 NGO カレッジ講座 第 5 回（1/25） 海外ボランティア・ワークキャンプ事前研修 第 3 回（1/29） 	<ul style="list-style-type: none"> 大野城市社会福祉協議会「視察研修」受入（1/7）
2月		<ul style="list-style-type: none"> うきはベース（2/1～2/2） うきはベース（2/16～2/18）学生企画 	<ul style="list-style-type: none"> 海外ボランティア・ワークキャンプ事前研修 第 4 回（2/19） 海外ボランティア・ワークキャンプ in フィリピン（2/21～3/2） 	<ul style="list-style-type: none"> 久山療育園チャリティーコンサート（2/1） 学生ボランティア団体支援表彰式【西南 FWIC 九州】（2/14） 野芥校区学習支援ボランティア（2/22）【福岡未来創造プラットフォーム】 西南学院 中村哲先生 追悼の集い（2/24）
3月		<ul style="list-style-type: none"> うきはベース（3/7～3/8）中止 うきはベース（3/14～3/15）中止 	<ul style="list-style-type: none"> バイラー大学学生との交流ボランティア活動（3/11～3/14）中止 	<ul style="list-style-type: none"> 新聞社三紙合同企画【朝日新聞社×日本経済新聞社×読売新聞社】 《発行物》 2020 年度ボランティアガイドブック

2021年度 学院聖句

愛を身に着けなさい。愛は、すべてを完成させるきずなです。

コロサイの信徒への手紙 3章 14節（新共同訳）

 西南学院大学 ボランティアガイドブック

2021年4月

発行／西南学院総務部

キリスト教活動支援課 ボランティアセンター事務室

福岡市早良区西新6丁目2-92

TEL 092-823-3662 FAX 092-823-3335

E-mail : swvoc@seinan-gu.ac.jp

URL : <http://www.seinan-gu.ac.jp/volunteer/>

編集／西南学院総務部

キリスト教活動支援課 ボランティアセンター事務室

印刷／株式会社 キャンパスサポート西南

S Rプリンティングセンター